

こぼれ話

誰でも年を取れば多少なりとも気難しくなり、ちよつとしたことでも腹を立てたり怒鳴ったりする。そうした方を支える家族の苦勞もこれまた察して余りある。そんなお父さんを抱えるある家族もそうだ。普段はとても温厚な父だがちよつとしたことでむきになり、腹を立てやすくなった。その家庭での出来事。外は連日のように寒く戸を開けると冷気が入りこんでくる。しかし家の中は暖房も効きこたつもあり寒くはない。昼、妻は家の中の戸を少し開けた。夫「寒んびくが。なんで開げだや!」。妻「今日はそんなに寒くないが」。夫「寒んびくたら寒んびくんだ」。妻「おらまほに!」とあきれ顔をくした。夫「俺が寒んびくたら寒んびくんだ!」と怒鳴った。妻は心の中でつぶやいた。「(まるでトランプだ!『怒鳴る』し『一郎(仮名) ファーストだ』)」と。



わが家の一品

「長芋とひき肉のあんかけ和え」

【材料】長芋、豚ひき肉、出汁こんぶ、出汁の素、つゆ、みりん、砂糖、オリーブオイル、片栗粉。【つくり方】長芋(とろろ芋)にひき肉のあんかけをトロロリとかけて食べてみてはどうでしょうか。つくり方も簡単です。面倒では

台風被害

地域なりわい交付金/16
2事業所3億7150万円
台風10号被害からの再建へ

一昨年8月末の台風10号による被害からの事業所再建を支援する「地域なりわい再生緊急対策交付金」事業は、市産業支援センターによれば交付決定件数は162件で交付金額は3億7150万円であることが分かりました(今年1月末)。大震災と台風のダブルパンチが



読者の文芸欄

●実は落ちてへたのみ残る柿の木の寒々として冬空に伸び
●待たせしるに小さく会釈せば雪道を行くゆとり生まるる
●自注/冬まつただ中、降るかと思えばそれ程でもなかつた。ただ二月は降る「月」だというから用心、用心。

短歌 金沢邦臣(田鎖)

大震災後7年 応急仮設入居者164名/みなし仮設95名

最後の一人までの住まい再建



昨年12月末時点の被災した市民で応急仮設住宅入居者は、91世帯164名、みなし仮設入居者は33世帯、95名で、合計で124世帯、259名です。なおみなし仮設入居者の内訳は民間賃貸住宅29世帯79名、公営住宅4世帯16名です。大震災後から95%の被災者が退去したが

昨年12月末時点の被災した市民で応急仮設住宅入居者は、91世帯164名、みなし仮設入居者は33世帯、95名で、合計で124世帯、259名です。なおみなし仮設入居者の内訳は民間賃貸住宅29世帯79名、公営住宅4世帯16名です。大震災後から95%の被災者が退去したが



無私の奉仕が大切だ。3週間をいかに過ごすか。釣り吉らのこの3週間の家庭内での振舞の良し悪しが、スタートの流れを決する。

だけの所など補助対象にならない事業所も含まれておりますが、申請はほぼ完了、と見えています。ただ、商工会議所が窓口の補助制度の方は開会中の国会に補正が計上される予定と、その推移を注視しているといえます。

ダブルパンチを乗り越え 事業と雇用を守る この数年で大震災からの復興事業はほぼ収束に向かいます。また少子高齢化も加速することが予想されています。被災事業所1000件 若者が宮古で定住する 商工業者です。

情報

渓流釣り解禁

渓流釣りは3月1日が解禁日である。関東以南は2月1日解禁が多いが、その差は奥山の雪と水温に関係があると言われる。この時期のヤマメ、イワナは川底の葉の陰や川底のえぐれている淵にじつとしている。水温が低くいわゆる「半冬眠状態」だ。また、昨年の産卵から体調も回復していない。体の肌にはサビが残っている。このサビは水温が上がると、雪解け水が流れてきて徐々に取れ、あの銀色の肌が変わっていく。